

とうきょうすくわくプログラム

調布市立金子保育園
調布市西つつじヶ丘4丁目16番地

【活動概要】 2歳児クラス、15名
【活動期間】 令和7年8月・9月・10月
計3回

【テーマ】

色水遊び

【テーマ設定の理由】

水遊びの際に、色水遊びを設定すると、子どもたちは、「混ぜてみたい!」「ジュースみたい!」と目を輝かせながら色水を混ぜ合わせ、透明カップに注いでジュースづくりを楽しむ姿が見られた。色が変化する度に、驚きや、喜びの声を上げ、繰り返し楽しもうとするなど、主体的に関わる様子が印象的であった。子どもたちのいきいきとした姿から、色水への興味・関心の高まりを感じられた。「色水遊び」をテーマとして、段階的な活動を計画し、遊びを広げ、発見や気づきを深める。

【活動のために用意したもの】

- 第1回目 ~絵具遊び~
- ・絵具
 - ・トレー（人数分）
- 第2回目 ~絵の具遊び~
- 第3回目
- ・絵具
 - ・水
 - ・模造紙
 - ・トレー
- 第4回目 ~色水遊び~
- ・草花
 - ・水
 - ・収穫した花を入れるカップ
 - ・透明カップ

『第1回 絵具遊び』 “絵具と絵具を合わせると、色が変わる!?”

第1回目は、青・緑・黄色・ピンクの絵の具をトレーに広げ、絵の具に親しむ活動を行った。感触を楽しむとともに、絵の具が混ざりあうと異なる色に変わること気付くきっかけになるような活動にする。

これ、
触ってもいいの…?

色が混ざるの?
やってみよう!

なんだろう…
ぬるぬるする!

みてみて~!
手が
黄色になった~

ぐるぐるすると
色が混ざったよ!

<活動の振り返り>

トレーの上で、絵の具の感触を楽しめる入門的な活動を行った。子どもたちは、「わあ!きれい!」「冷たい!」と思いつきの感想を言葉にしていた。また、色が混ざり合う様子に気付くと、「混ざった!」「違う色になった!」と、驚きや喜びを口にする姿も見られた。一方で、「ちょっと怖い」と慎重に触れる姿も見られたが、保育者が気持ちに寄り添いながら見守ることで、次第に、自ら手を伸ばす様子へと変化していった。色の変化の気づきや、発見の喜びを共有することができ、今後の活動への興味につながる機会となった。

『第2回・3回 絵の具遊び』 “全身で絵の具遊びを楽しもう！”

第1回での絵の具遊びへの興味の高まりを受け、第2回は大きな模造紙を用いて、全身でダイナミックに絵の具の感触を楽しめるようにした。さらに第3回では戸外でフィンガーペイントを行い、より開放的な環境の中で主体的に表現を広げられるようにする。

2回目 室内

みて～！
黄色がいっぱい♪



青色を混ぜてみようかな～！
どんな色になるかな～



手がピンク色で
いっぱいになったよ～！

床に大きな紙を用意すると…
手で絵の具を付けた跡を、足で踏む！
すると…



足跡ができた！
面白い♪

3回目 戸外

青とオレンジを混ぜたら茶色
になった～？



ぬるぬるしてて、
冷たくて気持ちい！

色んな色の絵の具絵を塗って…
全身も、壁もカラフルになりました！



楽しかった～♪

<活動の振り返り>

第2回では活動の場を広げたことで、全身を使って大胆に表現をする姿がみられた。第1回で不安を感じていた子も、経験を重ねる中で、安心感が育ち、楽しんで参加する様子へと変化した。第3回では、戸外という開放的な環境が解放感を高め、より、のびのびと主体的に取り組む姿が見られた。環境の工夫が子どもの安心感や、表現の広がりにつながったと考えられる。

『第4回 色水遊び』 “お花から色水が作れるの!?”

これまでの絵の具を使った遊びの中で得た色の混ざり合いの経験を生かし、身近な草花から色が生まれることに気付くよう雌花を用いた色の抽出を行った。草花から色を抽出する活動を通して、自然の色の不思議さに気付く。抽出した色水を混ぜる中で、色の変化に気付き、試す楽しさを味わう。

1, まずは、お花を収穫します!

自分のお気に入りのお花を探して、収穫も真剣な表情です♪

どれにしようかな～



このお花に決めた!
高いところにあるけど、
届かな!



みてみて～!
お花沢山集めたよ!
このお花可愛いでしょ～?

2, カップに水を用意して、お花を揉んで色を抽出します!

みんなで並んで夢中になって取り組みました!

こうやって力を入れるのが
ポイントなんだよね…!



みて～!
きれいなピンク色に
ができたよ♪



雨が降ってきたよ♪
雨のお水も使ってみようよ!



完成したよ!
葉っぱを使ったら
黄色になったの!



うわ～♪
きれいな色♡



かんせい!!

<活動の振り返り>

花から色が出る様子に驚きや不思議さを感じる姿が見られ、「やってみよう!」と見様見真似で取り組もうとする姿が見られた。初めは、指先の使い方や、力加減に難しさを感じ、戸惑う様子もあったが、保育者と一緒に行う中で、次第にコツを掴み、自分で色を出すことができた喜びを感じる姿へと変化していった。草花の量や指先の力加減によって、色の濃さが変わることや、柔らかい葉からも色が出ることに気づき、色の生まれる過程への興味をさらに深めることができた。

<第1回～4回の活動によって得た保育者の気づき>

- ・段階的に活動の場や素材を広げながら展開したことで、子どもたちは感触への不安感から安心感へ、そして、主体的に関わる姿へと変化していった。子どもの興味・関心や、心情の変化に合わせて保育を計画・展開していくことの大切さを改めて感じた。
- ・一人ひとり「遊び」の中でよく考え工夫し、自分なりのイメージを持ちながら取り組んでいるということを実感した。それまでの子どもが一生懸命取り組んだ姿を認め言葉にして伝えることが、子どもの達成感と、さらなる意欲や興味に繋げるために大切なことであると感じた。